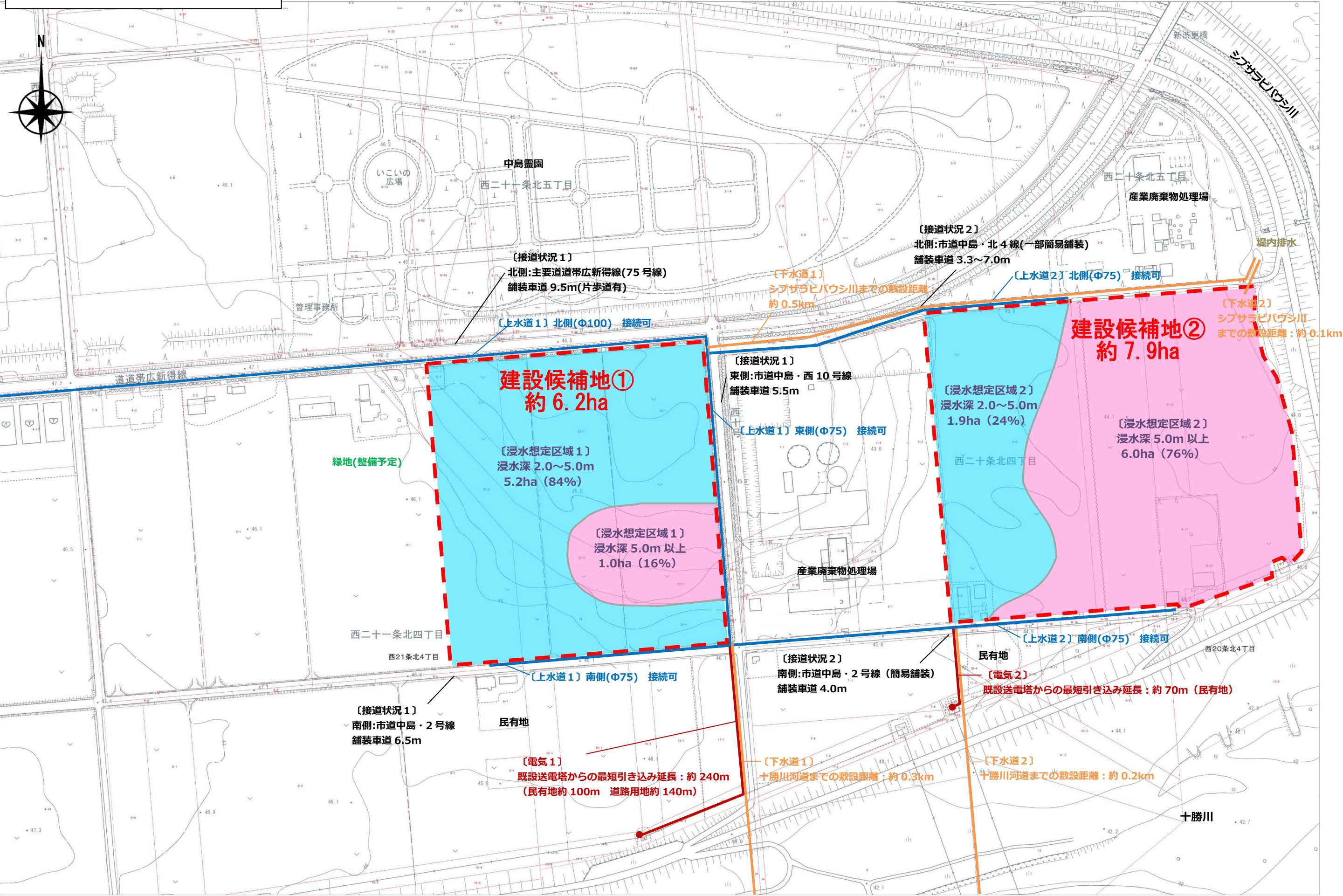


建設候補地の比較

平成29年度にまとめた建設候補地の概要をもとに、防災関係、生活環境、周辺状況についてさらに検討を行い、比較評価しました。

項目	評価内容	建設候補地①	建設候補地②
		約6.2ha	約7.9ha
防災関係	浸水想定区域	浸水深2.0～5.0m：5.2ha（84%） 浸水深5.0m以上：1.0ha（16%） 【概要】 南側に十勝川が流れており、洪水発生時の浸水深5m以上の区域は比較的少ない。 【評価】 プラットホームや電気室、中央制御室といった主要な施設、機器は、浸水深より高い位置に設置する必要がある。 建設候補地①と比べ建設候補地②の方が浸水深5m以上の面積が広く、より多くの嵩上げが必要となることから、施設を整備する上では建設候補地①が優位である。	浸水深2.0～5.0m：1.9ha（24%） 浸水深5.0m以上：6.0ha（76%） 【概要】 南側に十勝川、東側にシブサラビバウシ川と十勝川の合流する箇所があり、洪水発生時の浸水深5m以上の区域が4分の3を占める。
生活環境	周辺への配慮	東側：産業廃棄物処理施設 西側：緑地（整備予定） 南側：民有地 北側：霊園 【概要】 西側が緑地（整備予定）に隣接しており、残る東・北・南側については周辺への対応が必要となる。 【評価】 都市計画運用指針（国土交通省）では、廃棄物処理施設の位置について、「敷地の周囲は、緑地の保全または整備を行い、修景及び敷地外との遮断が望ましい」とされている。 いずれの候補地でも3方向の敷地境界に沿って緑化スペースを確保することができることから周辺との遮断は可能である。	東側：シブサラビバウシ川 西側：産業廃棄物処理施設 南側：民有地及び十勝川 北側：産業廃棄物処理施設 【概要】 東側が河川に隣接しており、残る西・北・南側については周辺への対応が必要となる。
周辺状況	接道状況	北側：主要道道帯広新得線（75号線） 舗装車道9.5m（片歩道有） 南側：市道中島・2号線 舗装車道6.5m 東側：市道中島・西10号線 舗装車道5.5m 【概要】 北側に主要道道帯広新得線、東側及び南側の市道に接道している。 【評価】 施設を利用する車両が安全かつ円滑に走行することが必要である。 建設候補地①は、3方向が接道しており、車両の出入りが容易であることから施設配置の自由度が大きく、また、建設候補地②は、近隣の産業廃棄物処理施設への搬入車両との輻輳対応や施設利用車両のためには道路の拡幅や舗装などの道路整備が必要となることから建設候補地①が優位である。	北側：市道中島・北4線（一部簡易舗装） 舗装車道3.3～7.0m 南側：市道中島・2号線（簡易舗装） 舗装車道4.0m 【概要】 敷地の南側と北側が市道と接道しているが、いずれも行き止まり道路であり、一部は簡易舗装となっている。
		北側・東側・南側の一部に敷設（φ75～100） 【概要】 北、東、南側の3方向から接続できる。 【評価】 施設には上水道が必要であり、建設候補地①は3方向、建設候補地②は2方向に水道管が敷設されており、いずれの候補地でも受水が可能である。	北側の一部、南側の一部に敷設（φ75） 【概要】 北側、南側の2方向から接続できる。
	下水道	シブサラビバウシ川までの敷設距離：約0.5km 十勝川までの敷設距離：約0.3km 【概要】 いずれの河川に放流しても樋管の敷設距離が建設候補地②より長い。 【評価】 施設を運用するにあたっては、工場内処理水、生活雑排水及び雨水の排水について対応が必要となる。 排水処理については、河川放流と施設内完全クローズド方式などが考えられる。現時点では、どの方式を選択するか未定であり、どちらの建設候補地が優位か一概に判断できない。	シブサラビバウシ川までの敷設距離：約0.1km 十勝川までの敷設距離：約0.2km 【概要】 いずれの河川に放流しても樋管の敷設距離が建設候補地①より短い。
		既設送電塔からの最短引き込み延長：約240m 【概要】 十勝川北側の既設送電塔から敷地内の最も近い場所（敷地の南東角）までの区間は民有地100m及び道路用地140mとなっている。 【評価】 既設の送電塔からの最短引き込み延長では建設候補地②の方が短い、いずれの候補地も電力会社との協議が必要となり、現時点では、既設送電塔との接続施設（開閉所）や焼却施設からの地下ケーブル敷設などの具体的な整備内容が不明であることから、どちらの建設候補地が優位か一概に判断できない。	既設送電塔からの最短引き込み延長：約70m 【概要】 十勝川北側の既設送電塔から敷地内の最も近い場所（敷地の南東角）までの区間はすべて民有地となっている。
	電気		

建設候補地平面図



建設候補地現況写真

